

中国の携帯電話機市場・サービス調査を実施

- 2004年の携帯電話加入者総数は3億人、国内販売台数は8千5百万台を予測 -

総合マーケティングビジネスの株富士経済(東京都中央区日本橋小伝馬町 社長 原 務03-3664-5811)はこのほど、急成長を続ける最新市場動向を調査して3月に続く第2回目の報告書、「2003年 中国携帯電話機市場・サービスの展望」調査をまとめた。

弊社では中国携帯電話機産業、市場を毎年調査している。この調査レポートでは、中国携帯電話機市場動向、生産動向、携帯電話サービス動向、PHS市場動向、などを報告する。

< 調査方法 >

富士経済グループの中聯富士経済咨询有限公司(北京)の専門調査員が、中国関係各機関の基本統計データと推定を基に、主要企業への取材を実施して分析。

< 調査期間 > 2003年8~9月

調査の結果

中国は2002年11月末までに携帯電話加入者総数が2億人(信息产业部)を超え、世界一の巨大市場となった。また2001年末にWTO加盟を承認され、2002年から本格的に世界市場への供給を開始し、同年には携帯電話機の生産が1億27百万台(対前年41%増)に急成長した。

国内販売市場は外資企業に対して関税の引き下げ、販売チャネルの認可拡大などやや市場緩和を行ったこともあり69百万台(対前年47%増)となった。携帯電話事業ではCDMAやGPRSのサービスが始まった。

国内企業大手は生産能力を拡大し、2002年には生産台数が500万台を超える企業が2社(BIRD, TCL)出現し、国内メーカーの生産能力、販売力が高まった。

2003年1-6月の国内市場はSARSに関わらず引き続き旺盛な需要で伸びたが、国内メーカーの生産過剰により在庫がたまり価格競争が激しくなってきた。国内メーカーのBIRD、TCLの販売が急増し、2003年の国内メーカーの国内販売シェアは50%を超える見込みとなり、競争力の弱い外資系企業の販売シェアが低くなった。特にMOTOROLAの落ち込みが大きかった。

調査のポイント

< 2003年 中国携帯電話機市場の特徴 >

2002年からCDMA方式加入者が700万人、GPRS方式加入者が200万人と普及し始め、2003年にはCDMA1X方式サービスも始まり50万人の加入が見込まれる。

2003年1-6月はSARSや国内メーカーの生産過剰による在庫増などの問題があったが、携帯電話機の売れ行きは良かった。7-12月は在庫増などとともにPHSの影響により低価格機が伸び悩み見込みである。

PHSの市場が2002年から急拡大し、加入者総数は2002年末に1,300万人、2003年末には2,500万人を超えると見込まれる。GSM方式携帯電話機の低価格機は値下げを行ってPHSに対抗しているが、逆にPHSに市場が食われる傾向もあり、2003年後半から携帯電話機の国内需要が伸び悩み始めた。

< 2003年以降の中国携帯電話機市場動向 >

2003年4-6月国内市場はSARSの影響を受けた。しかしSARS沈静後の市場状況を見ると、SARSの年間の販売台数に対する影響は大きくない。

2002~2003年、国内市場構造は変化した。国内メーカーが急成長し、外資メーカーのシェアが減少した。2001年、85%であった外資ブランドのシェアは、2002年には69%に下がった。さらに2003年1-6月、国内メーカーのシェアは55.3%にまで上昇しており、2003年末には外資企業の国内市場シェアは45%前後まで減少する見込みである。

方式別国内市場シェアではGPRS携帯電話機の価格が急激に下がったため(2002年末には1,000元以下にまで値下げ)販売が急増した。多くの中クラス以上のGSM携帯電話機は2003年までにGPRSもサポートしている。一方、国内の一人平均通信費用支出は低下し、GPRS方式加入者数の増加は緩慢である。GPRS携帯電話機ユーザーであっても主にGSM音声サービスを利用しGPRSサービスを利用していないことが原因と考えられる。

2003年1-6月、CDMA携帯電話機は国内市場で396万台販売された。中国移動通信事業者トップの中国聯通のCDMA新規加入者年度計画と大きな差が出たことから同社は様々な方法で年度計画を達成すると思われる。2003年の国内CDMA携帯電話機市場は急成長すると見込まれる。

国民の収入の増加につれ、携帯電話機の購入価格も上がって行き、2005年には国内市場で第3世代携帯電話機(3G)が普及すると考えられる。

<カラーディスプレイ携帯電話機ウエイト>

2003年、国内カラーディスプレイ携帯電話機市場は急成長し、1-6月ではカラーディスプレイ携帯電話機は国内販売携帯電話機全体の73.5%を占めた。またカラーディスプレイ携帯電話機の価格が急激に下がり、市場の発展を促進した。年間のカラーディスプレイ携帯電話機の国内販売シェアは81%前後を占めると思われる。2004年にはカラーディスプレイ携帯電話機が全面的にモノクロディスプレイ携帯電話機に取って代わると予測される。

<カメラ付携帯電話機ウエイト>

2002年、カメラ付き携帯電話機は上クラス製品であり、価格が影響し販売量は少なかった。2003年、各メーカーは生産コストを下げた。韓国Cross S&T社が2月に世界最小で低コストのカメラインターフェイスICを開発し、中低クラス携帯電話機用及び上クラス携帯用ICシリーズを設計した。この核心部品のコストの低下及び2003年の各メーカーの在庫状況が販売価格の低下を引き起こし国内市場の販売量を急増させると見込まれる。

<携帯電話インターネットサービス>

(1) サービスプロバイダー

携帯電話インターネットサービスのプロバイダー(ISP)は携帯電話事業者が行っているが、2002年からGPRS、2003年からCDMA 1X、PHSによるインターネットサービスが始まり、環境が整ってきた。

(2) コンテンツ・サービス

携帯電話コンテンツサービスは2003年になりさまざまなサービスが出てきた。既に画像ダウンロード、着メロダウンロード、株情報サービスなどのサービスが始まってきた。

<主要3都市携帯電話市場動向>

中国全体の携帯電話普及率は16.2%とまだ低く、さらに普及が見込まれる。

北京 中国で最も普及率が高くユーザー数が多い都市である。携帯電話機ユーザーは国内で行なわれているCDMA 1Xを含むすべてのモバイル業務サービスを受ける事が出来る。携帯電話機の普及率は、66.5%で全国トップである。

上海 2003年7月までの携帯電話機ユーザーは1,000万人を突破し、その普及率は、56.5%。

広州 携帯電話機の普及率は、41.4%、ユーザーの70%はプリペイドユーザーである。

報告書の構成(A4判233ページ)

2003年中国携帯電話市場の特徴編で加入者数や、方式別市場シェア、PHS生産 サービスプロバイダー、そしてコンテンツサービスについて解説する。中国携帯電話市場編では携帯電話の事業者動向と端末機の市場動向を明らかにし新技術の採用状況や新製品動向に触れてゆく。携帯電話設備市場編では基地局設置実態に触れ、ネットワーク設備市場動向の現状を解説する。携帯電話サービス編では、携帯電話インターネットサービスプロバイダー(ISP)と携帯電話インターネットコンテンツプロバイダー(ICP)の現状を紹介する。北京 上海 広州の主要3都市携帯電話市場編に続き、その他移動通信編ではPHSと無線LANについて分析する。

巻末添付資料としては、携帯電話関連企業リスト36社の企業名・住所・電話・FAX一覧表と携帯電話機許可証リスト(2002年12月発表まで)を収録。

以上

資料タイトル : 2003年 中国携帯電話機市場・サービスの展望
体 裁 : A4判 233ページ
価 格(税別) : 100,000円 (レポート購入者用別売りPDFファイル 10,000円)
セット価 格(税別) : 180,000円
「2003年、中国携帯電話機・部品産業の展望」(2003年3月発刊)購入の場合
調査・編集 : 東京マーケティング本部 海外開発グループ TEL 03-3664-5821
発 行 所 : (株)富士経済
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町2-5 F・Kビル
TEL 03-3664-5811(代) FAX 03-3661-6093
e-mail:koho@fuji-keizai.co.jp
この情報はホームページでもご覧いただけます。URL : <http://www.group.fuji-keizai.co.jp>